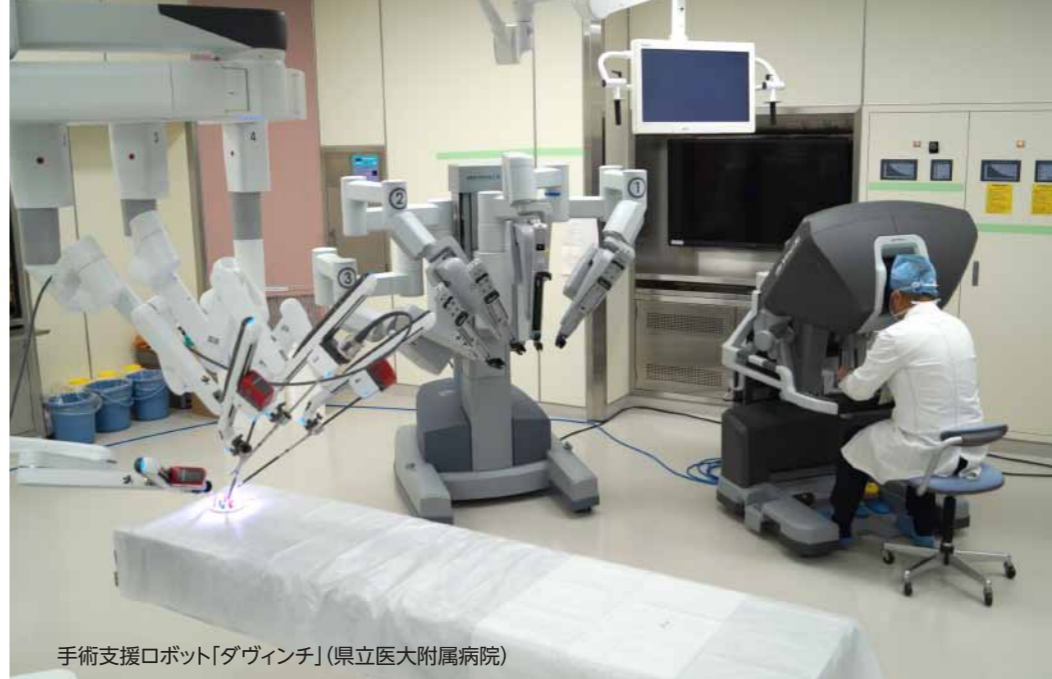


がん医療の充実

県では、県民の皆さんが住んでいる地域にかかわらず、それぞれのがんの特性に応じて、適切かつ質の高いがん医療や専門相談などを受けられるよう、医療提供体制の整備を進めるとともに、日々進歩するがん医療や多様化する患者ニーズに対応する先進的な医療を推進します。



手術支援ロボット「ダヴィンチ」(県立医大附属病院)

がんと折りあう

患者さんの多くは、治療に伴う身体的な苦痛だけでなく、不安や悩みを抱えており、そのご家族もさまざまな苦痛を抱えています。そのため、患者や家族の相談支援体制の充実を図るとともに、医療・福祉・教育・就労支援などの関係者と連携して、患者さんが住み慣れた地域で生活をするうえで必要な支援を受けることができる環境づくりを進めています。

がん緩和ケアの推進

緩和ケアは、人生の最終段階の時期に行うケアだけでなく、がんが診断されたときから、がんに伴う体と心の痛みを和らげるケアで、患者さんの生活が保たれるように、医学的な側面に限らず、幅広いサポートをしていくことです。

拠点病院や県推進病院などを中心に、引き続きがん診療に緩和ケアを組み入れた体制を整備充実するとともに、がん診療に携わるすべての医療従事者が緩和ケアに関する基本的な知識、技術を身につけることをめざし、県や拠点病院、推進病院などでは、緩和ケア研修会を実施しています。

(平成28年度末現在115回開催・延べ1,832人受講修了)



質の高いがん医療の提供

県では各地域において、高度で専門的ながん医療を提供する「がん診療連携拠点病院」(国指定)と、拠点病院に準じる病院として県が独自に指定した「がん診療連携推進病院」などを中心とした地域の医療機関の連携体制強化を推進しています。また、拠点病院や推進病院では、最先端医療機器を導入するとともに、手術や放射線治療、薬物療法(抗がん剤)などを組み合わせた、質の高いがん治療を行っています。



がん先進医療の治療費補助

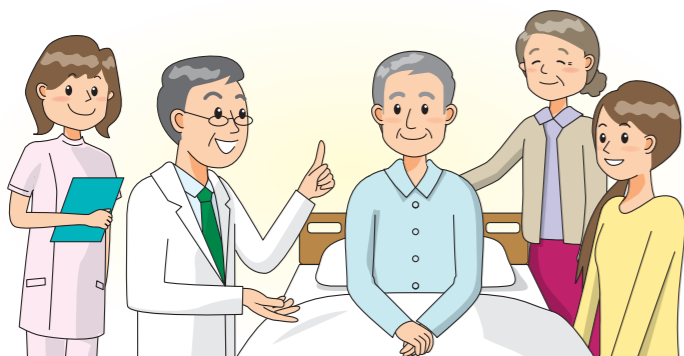
県では、公的医療保険が適用されない先進医療のがん治療(例：重粒子線治療、陽子線治療)を希望するがん患者が、経済的理由により治療をあきらめるといふことがないよう、平成26年から治療にかかる費用の一部を補助しています。

【補助率等】 2分の1以内(限度額150万円)

※詳しくは、県庁健康推進課へお問い合わせください。

がんに関する相談支援

拠点病院と推進病院には、病気・治療に関する相談だけでなく、社会的な問題の相談にも応じる「がん相談支援センター」が設けられています。専門の研修を受けた相談員が、患者や家族だけでなく、医療従事者、地域の方々からのさまざまな質問や相談に対応しています。どなたでもご利用できますので、お気軽にご相談ください。



県立医大附属病院がん相談支援センター 雑賀祐子 認定がん専門相談員

治療にかかる経済的な負担や担当医に聞けなかった些細なことなど、相談内容は多岐にわたります。がん患者の3人に1人は働く世代で、治療と仕事を両立するための支援が必要になってきています。



私たちは、これからも関係機関の皆さんと連携しながら、患者さんがどうしたいのか、患者さんの気持ちに寄り添い、安心して生活を送ることができるよう、その意思決定を支援したいと思っています。

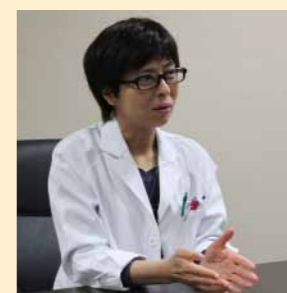
がん相談支援センター

機関名	電話番号	対応時間(平日のみ)
県立医大附属病院	073-441-0778・0779(直通)	9:00~17:00
日赤和歌山医療センター	073-422-4171(代表)内線1125	9:00~17:30
公立那賀病院	0736-78-2340(直通)	8:45~17:00
橋本市民病院	0736-34-6116(直通)	8:30~17:00
紀南病院	0739-22-5118(直通)	8:30~17:15
南和歌山医療センター	0120-92-8160(直通)	8:30~17:15
和歌山労災病院	073-451-3181(代表)	9:00~16:30 (受付は16:00まで)
国保日高総合病院	0738-24-1786(直通)	9:00~16:00
新宮市立医療センター	0735-31-3345(直通)	8:30~17:00

これからのがん医療 —がんゲノム医療—

ゲノムとは、遺伝子「gene」と、すべてを意味する「-ome」を合わせた造語で、DNAに含まれる遺伝情報全体をさします。ゲノム情報は、体をつくるための設計図のようなもので、それらを調べ、一人ひとりの違いを考慮した最善の治療などを行うのがゲノム医療です。

県内では、県立医大附属病院と日赤和歌山医療センターが、「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。



県立医大 内科学第三講座 徳留なほみ 助教

これまで「がん」は、発症する臓器により治療法の選択が行われていました。しかし、研究により一部のがんは、発症する臓器に関わらず、特定の遺伝子に異常が起こることによって発症することがわかってきました。患者さんから採取したがん組織の遺伝子を調べることで、その患者さんにあった治療が受けられる可能性が広がるがんゲノム医療が始まっています。

県立医大では、がんゲノム医療が、より身近なものとなっていくよう取り組んでいます。